



NEWS 令和3年度市史編さん講座を開催しました

12月13日（月）遠野市民センター大ホールを会場に、令和3年度遠野文化遺産セッションが開催されました。この中で遠野市史編さん講座と兼ねて基調講演が行われ、70人あまりが聴講しました。

講師は弘前大学名誉教授で、中世史・平泉研究者の齊藤利男遠野市史編さん委員がつとめ、「遠野を制するものは岩手を制す一新発見！奥州藤原氏時代の遺跡は語る」と題して講演しました。

講演では、遠野は「中世の原風景」がよく残っているとした上で、12世紀の遠野は奥州藤原氏が直接支配する独立行政区「遠野保」であり、宮代IV遺跡、阿部館遺跡からの出土遺物は奥州藤原氏の支配を裏付けるものであること、内陸と沿岸を結ぶ街道の結節点「文明の十字路口」であった遠野を直接支配下におくことで北に勢力を伸ばし、現在の岩手県の範囲を手中に収めようとしたのであろうと解説し、さらに遠野保の政治的中心である大規模な居館「遠野政庁」が、今後見つかる可能性がある」と期待を寄せました。



▲講師の齊藤利男委員



▲会場のロビーには、宮代IV遺跡や阿部館遺跡から出土した土器などが展示された

用語解説

*保…ほ/ほう。

古代から中世に存在した地域行政の単位で時代や地域により意味は異なる。ここでの保は、11世紀後半に成立した国衙領の一種で、在庁官人や在地領主などが田地開発を行った領域を郡から分離させて独立の行政区としたもの。遠野保の周辺には、平泉保、興田保（一関市大東町）などがあった。

遠野文化遺産セッションの詳細な様子は、広報遠野の令和4年1月号に掲載される予定です。そちらもあわせてご覧ください。



部会の窓 第5回中世・文献グループ会議を開催しました



▲会議の様子

12月14日（火）第5回中世・文献グループ会議を開催しました。今回は、「資料編」の本格的な執筆を前に原稿の体裁や作成方法について再確認したほか、各委員が作成した資料をもとに「資料編」に取り上げる史料の検討を行いました。

また今後の調査計画についても議論を行い、来春に改めて経塚や板碑の調査を専門家に依頼して行うことなどを申し合わせました。

調査レポート 民俗部会委員による聞き取り調査を行いました

11月29日(月)民俗編に関する聞き取り調査を綾織町と小友町で行いました。調査を行ったのは民俗部会の後藤美穂委員です。今回は、綾織地区センター、小友町農産物直売組合(産直ともちゃん)、小友町第2行政区の各代表者の方々にお話をうかがいました。



綾織地区センターでは、地区の特徴や行っている事業について聞き取りを行いました。綾織町は女性が活発に活動している地域であることや、町民にアンケートを取り、地区センター、遠野市社会福祉協議会と民間業者が協力して移動販売ルートを見直したこと、屋号マップを作成中であることを紹介していただきました。

◀綾織地区センターの阿部所長にお話をうかがう

手作りパンや新鮮な野菜が人気の産直ともちゃんを運営する小友町農産物直売組合では、小松福志組合長から、当初「安ければお客さんは買ってくれる」という組合員の意識を変えることが大変であったこと、現在も品質管理を厳しく行っていること、夏や秋は商品の補充が追いつかないほどであるが、冬は農産物が少なくなるので商品を工夫しなければならないこと、などをお話いただきました。

(左上) 聞き取りの様子 (右上) 産直ともちゃんの店内▶
(左下) 人気の“プチピー” (右下) 新鮮な農産物が並ぶ



小友町第2行政区の奥友康悦区長には、行政区内にある小友町中央振興会や小友町裸参り保存会などの組織やその活動について、総会資料をもとに教えていただきました。特に、環境整備の際、不参加の場合の負担金は徴収せず、参加者へ町内でのみ使える商品券を渡し、町内での消費活動を後押ししているという活動が大変印象的でした。

◀奥友区長にお話をうかがう

編さん室日記

はやいもので2021年も暮れようとしています。冬至が過ぎると少しずつ日が長くなって行きますが、まだまだ寒い日が続きますね。

今年も多くの方々により市史編さん事業にご協力頂きありがとうございました。どうぞよいお年をお迎えください。



編集・発行 遠野市民センター市史編さん室

〒028-0515 岩手県遠野市東館町3番9号(遠野市立図書館・博物館内)

TEL:0198-62-2340 FAX:0198-62-5758